

社団法人ゴルファーの緑化促進協力会調査研究

# 環境と人にやさしい ゴルフとゴルフ場

第16回

ゴミの埋め立て地をゴルフ場に再生

千葉市民ゴルフ場



## ゴミの埋立地をゴルフ場に転用

ゴミの総量は約111万トン

人間が生活を営む以上、ゴミは必ず発生する。そのゴミの処理としては、焼却またはゴミ処分場への埋め立てになる。ゴミ処分場としての役割を終え、整備された跡地の転用方法

は、各自治体によって様々だ。その転用例の一つにゴルフ場がある。以前本誌で紹介したことのある千葉市民ゴルフ場（千葉市若葉区下田町）も、その一例だ。

同ゴルフ場は、千葉県千葉市に所在し、昨年10月に新規オープンした9ホールのパブリックゴルフ場である。その埋め立て用地は千葉市で管理しているため、ゴルフ場の運営やコース管理に関しては指定管理者制度を採用し、民間企業に委託している。

この用地がゴミの最終処分場として利用されていたのは、昭和46年から平成9年までの32年間。当初は



昭和50年当時の状況

10年間で終了する予定だったが、千葉市の人口が増加し、それに併せてゴミの量も増え続けたため、平成9年まで延長されていた。昭和46年当時はゴミの分別収集が行われておらず、主に生ゴミ、不燃ゴミ、粗大ゴミ、焼却灰、コンクリートがらなどを含め、平成9年までに集積された約110万8000トンのゴミが埋め立てられているという。



市民の憩いの場となった千葉市民ゴルフ場

その膨大なゴミの埋め立て地をゴルフ場として整備し、再利用するわけだが、どのような経緯があってゴルフ場への転用が選ばれたのだろうか。今回は、ゴルフ場転用の経緯や、ゴルフ場が、環境面など周辺地域に果たす役割などを紹介したい。



## 損なわれた自然環境を回復

### 地域のイメージアップにも貢献

この土地は、ゴミが埋め立てられた場所なので、地盤が緩く地上部に建物を建設することができない。したがって、転用するにも選択肢は限られてくる。加えて昭和 52 年に、地中の排水処理に関して厳しい基準が設けられたため、千葉市は、汚水排水処理施設の運転・維持を含めた用地管理に努めなければならなくなった。元々、この土地は借地で、埋め立てが終了すれば返還することになっていたのだが、排水やガスなどの安全基準を満たすまでは、市が管理しなければならないのだ。



その設備の維持管理費が莫大なため、そのコストを抑えるためには収益性の高い施設に転用せざるを得ないという背景がある。それについて、同用地を管理する千葉市教育委員会・生涯学習部社会体育課の小野直哉氏に伺った。

「我々行政は、ただ単に埋め立て地を整地してお返しするのではなく、ゴミの埋め立て地として受け入れて下さった地域に対し、その後の管理

などの責任を果たさなければなりません。しかしその管理費は莫大で、毎年、市の財源から賄うことは厳しい状況でした。用地の転用候補には公園緑地もありましたが、ランニングコストを抑える意味でも、収益性のあるゴルフ場へ転用することにしました」

全体の用地面積は 43 ヘクタールで、そのうちの 41・6 ヘクタールがゴルフ場だ。その敷地内で発生する汚水を数か所でポンプアップし、9 番ホール裏にある集水ピットに集めて汚水処理を行う。綺麗に浄化された水は、同ゴルフ場の裏に流れる鹿島川に放流されている。ちなみに、行政による埋め立て用地の管理は、汚水が自然水と同等レベルにまで浄化され、また、地中で発生するガスが排出されなくなるまで続くのだという。

ゴルフ場への転用は埋め立て用地の維持管理という



名目もあるが、やはり、自然を回復させるという意味合いも強い。元々は、水田や林がある緑豊かな土地であったので、一度損なわれた自然環境を復元することが望まれた。ゴルフ場の造成においても積極的に植樹をし、さらには、元々の土地に生息していた樹種を選び、既存の植栽パターンでの復元を試みている。ゴミの埋め立て地をそのまま維持管理するのではなく、自然と共生するようなゴルフ場にしなければならないのだ。

また、自然環境の回復だけでなく、下田町に付いた「ゴミの埋め立て地」というマイナスイメージも改善しなければならない。

「千葉市がまず大前提としてやらなければならないことは、悪化させてしまった自然環境の回復と町のイメージの回復です。下田町に付いてしまった『ゴミの埋め立て地』というイメージに対して、ゴルフ場を訪れる市外の人々に、『市民スポーツ施設のある健全な町』という良いイメージを持ち帰って頂きたいのです。また、市外からより多くゴルファーを誘致できれば、地域の活性化にも繋がり、それが、ゴミの埋め立て地として受け入れて頂

いた下田町の人々への恩返しになるのではないかと考えています。これまでは、かなりの負担を強いてしまったので、これからは地域に還元していかなければなりません」(小野氏)

壊してしまった自然環境だけでなく、地域に対しても貢献しなければならないといえるだろう。

今回取り上げた千葉市民ゴルフ場の他にも、埋め立て地をゴルフ場に転用した例としては若洲ゴルフリンクス(東京)がある。ボタ山をゴルフ場に再生した麻生飯塚ゴルフ倶楽部(福岡)など、ゴルフ場は一度壊された環境を再生し、地域に貢献している。



若洲ゴルフリンクス(東京)



麻生飯塚ゴルフ倶楽部(福岡)



ちはなちゃん : 千葉市が推進する「花のあふれるまちづくり」のシンボルキャラクター